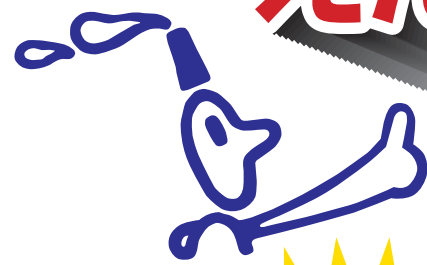


えんとつフェスティバル 2007



10/13 土

10時～15時

雨天の場合は、10月14日(日)に順延。
14日雨天の場合は中止。

- フリーマーケット (約30店舗)
 - 模擬店 (焼そば・わたあめ・ポップコーン・飲み物 他)
 - えんとつ〇×クイズ
 - えんとつミニツアー (清掃工場の見学)
 - クイズラリー
 - ステージ (和太鼓、ジャズ、ポップスなどを予定)
 - 参加団体等のブース その他
- *内容は、都合により変わることがあります。

会場：小平・村山・大和衛生組合
(小平市中島町2番1号)

東大和市駅または玉川上水駅徒歩10分



障がい者 自転車置き場 駐車場

あさやけ作業所のぞみ福祉園
みのり福祉園
3市ごみ連絡会
食器 あらい

トイレ(女性専用)

ウッドチップ実演

展示スペース

組合ブース

トイレ(女性専用)

フリーマーケットスペース

休憩スペース

学生による展示

ステージ

模擬店コーナー
焼きそば
フランクフルト
やきとり
だんご
わたあめ
ポップコーン
飲み物



駐車場はありませんので、ご来場の際は、徒歩、自転車、または、公共交通機関をご利用ください。

主管：えんとつフェスティバル実行委員会
主催：連絡協議会、小平・村山・大和衛生組合
後援：小平市・東大和市・武蔵村山市

えんとつアートギャラリー こたえ

写真は、「蛍光管」(棒状タイプ)です。積み重ねられた使用済の蛍光管を、取付面から写したものです。蛍光管は、3市がそれぞれ独自に収集・処理しています。量的には、それほどでもないと思われるのですが、3市全体の世帯数は約14万世帯で、各世帯が5年に1本を交換すると仮定した場合、単純計算でも、年間、約2万8千本の蛍光管がごみとして出されることになります。

発行 小平・村山・大和衛生組合
187 0033 小平市中島町2番1号
電話 042-341-4345
平成19年9月発行

VOICE 編集後記

バイオエタノール(植物性燃料)の影響で、輸入食品が高騰しているようです。二酸化炭素削減に向けた世界の動きが、食料自給率40%を切った日本の食卓に大きく影響を及ぼしています。エネルギーと食料は密接な関係にあることが分かります。輸入している食料の重量にそれぞれ輸送距離をかけた数字「フードマイル」という概念があります。食料の生産地から食卓までの距離が長いほど、輸送にかかる二酸化炭素の排出量が多くなるため「フードマイル」の高い国ほど、環境に対して大きな負荷を与えていることになりました。日本のフードマイルは、総量でも人当たりでも世界身土不二(しんじふじ)という言葉があります。身(からだ)と土(住んでいる土地)は二つにあらざる(二体である)の意味。昔からの教えです。私達の暮らす日本で、自然にそって育てられた作物は、私達の体に必要なエネルギーと成分を含んでいてくれます。また、身近で作られた食料を食べることは、すなわち地産地消は、地球環境にもやさしいのです。モノの豊かさや便利さに流されず、豊かさや便利さと上手に付き合いつながりながら、優れた日本の食をきちんと伝承していくことこそ、一人ひとりの健康の源であり、地域や社会全体の活力にもつながるものではないだろうか。

小平・村山・大和衛生組合

えんとつ No.21

小平・村山・大和衛生組合は、3市のごみを処理している清掃工場です。



10/13 土 えんとつフェスティバル 2007開催

《No.21主な内容》

- ・3市共同資源化等に関する調査結果まとまる
- ・「こもれびの足湯」おかげさまで大盛況
- ・小金井市のごみ処理支援状況

えんとつアートギャラリー

「まるいのがたかさん...?」「なんだろう?」



※答えは4ページ目の下段にあります。

プラスチック、びん、缶など資源6品目の処理施設機能についての調査

不燃・粗大ごみ処理施設は、プラスチック分別で大きな差

～3市共同資源化等に関する調査まとまる～



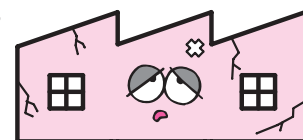
調査に当たって

小平市、東大和市、武蔵村山市の3市では、それぞれ別のリサイクル施設で、資源化の推進に努めています。しかし、年々増え続ける資源物や内容物の変化が処理能力を圧迫し始めています。

一方、組合では、不燃・粗大ごみ処理施設の更新が喫緊の課題となっています。そのため、びん、缶、ペットボトル、容器包装プラスチック、乾電池、蛍光灯の資源6品目の共同処理並びに不燃・粗大ごみ処理施設の更

新に向けて、検討することになり、このほど調査結果がまとまりました。今回の調査は、単に施設の規模や内容を検討するというものではなく、3市における循環型社会形成に関する将来のあるべき姿を展望し、組織市3市と組合が今後、どのような具体的な取り組みを進めるべきかを検討するための非常に重要な基礎資料になっています。

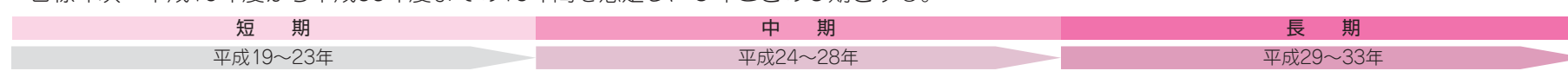
なお、調査報告書の概要は次のとおりです。



●施設の老朽化等

調査の目標・目標年次

・目標年次：平成19年度から平成33年度までの15年を想定し、5年ごとの3期とする。



・資源化基準の統一
・3市共同資源化施設(※)の整備

・あるべき姿の設定

・ごみ処理システムの統一
・焼却施設の更新

※3市共同資源化施設＝資源化施設機能＋不燃・粗大ごみ処理施設機能

共同処理のメリット

資源化に要するコストの低減、市民へのPRの向上、情報収集能力の向上、各市での事務作業の効率化。

想定システムと将来ごみ量

・平成33年の3Rビジョン(発生抑制、再使用、リサイクル)

「環境」に対する考えの変化

暮らしや事業活動の中で「環境」に配慮することは「ごく当たり前のこと」であり、誰もが無意識のうちに実践する社会となっている。

リデュース(発生抑制)・リユース(再使用)をめぐるイメージ
行政主導の廃棄物処理は姿を消し、協働と環境創造に基づく、持続可能な循環型社会が実現している。

3市共同資源化施設の可能性

調査用地は、面積4,311m²、建ぺい率60%であり、最大建築面積は2,587m²となる。これに対し、3市共同資源化施設に必要な建築面積は3,640m²となり、求められている全ての機能を一体化させて建設することはできない。このため、びん・プラスチック・缶など、資源6品目の処理機能及びごみ減量などの普及啓発を行うプラザ機能(資源化施設機能)と、不燃・粗大ごみ処理施設機能を分離し、調査することとした。

調査用地には、資源化施設機能を配置する案を、不燃・粗大ごみ処理施設機能は、組合用地(隣接地を含む)での配置案を調査した。

資源化施設機能の調査結果

【建物の構造】
地上3階、地下1階の4階構造。1階レベルで搬入・搬出車両を受け入れ、駐車場を地下に設置する。

【概算費用】
建設費：22億3千万円 維持管理費：年間2億8千3百万円

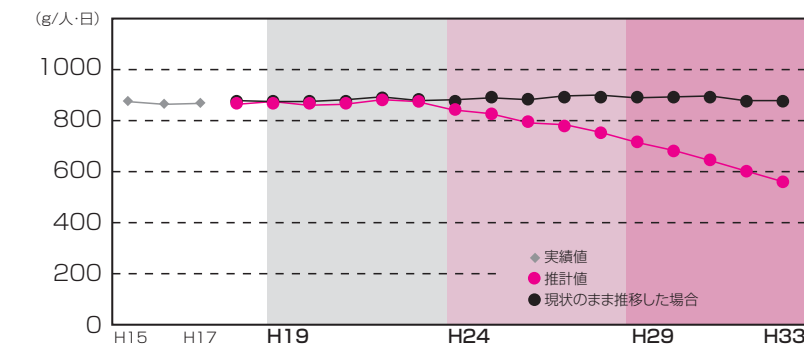
【環境負荷】
今後、生活環境影響調査を実施し、その程度を定量的に把握するものとする。

- 車両騒音：徐行運転により極力、増加させない配慮が必要。
- 施設騒音：作業は全て施設内で行うため、現行より減少することが期待できる。
- 悪臭：プラットホームで施設内の機密性を確保。資源物は施設内に収納することにより、周辺環境に影響を及ぼすおそれのある、悪臭のものはないと考えられる。
- その他：プラスチックの圧縮工程で、その摩擦により発生するといわれている化学物質については、設備を密閉化し、内部空気をガス洗浄するなど適切に処理する必要がある。

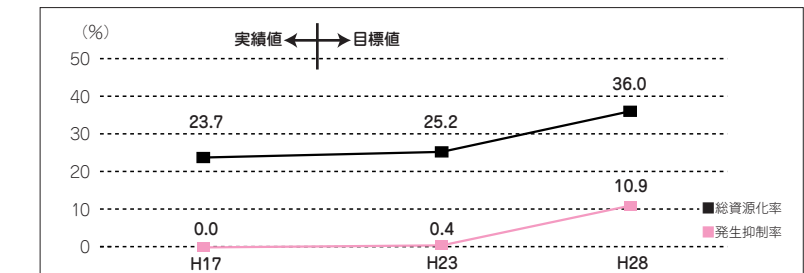
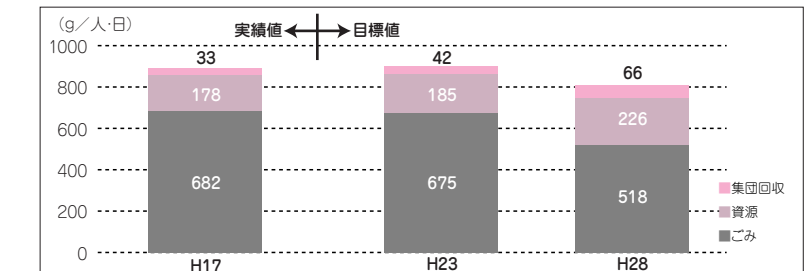
【搬入車両台数】
各資源物週1回収集パターンでは、約150台強/日になる。収集パターンを変えると、最大約230台/日になる。

【課題】
4階構造は日々の作業性など運用面の課題がある。また、地下構造が建設費の増大につながる。

《将来ごみ量の推移》



《ごみ減量・資源化の共通目標》



《3市がめざす3R*事業の方向性》

シナリオ分析により、3市がめざす3R事業の方向性、及び3市共通のごみ減量・資源化目標を次のとおりとした。

【中期の方向性】	(行政/民間の役割分担による3R推進) ●行政と民間(地域団体やNPO、民間企業等)とが役割分担を行い、3Rの仕組みを形成。 ●自治会による集団回収、紙パックの店頭回収や新聞販売店による古紙回収など、現在でもすでに取り組まれているリサイクル事業についても、多以上の品目に拡大。
【長期の方向性】	(民間主体による3R推進) ●地域団体や民間企業、NPO等にリサイクル事業を最大限委ね、民間ではどうしても回収できない資源など、必要最小限を行政等(経済的支援も含む)で実施。 ●市民や関係者との協働により製造事業者(メーカー)や販売事業者(小売店)での環境配慮の取り組みが進展し、ごみにならない製品作りなど、廃棄物の発生を抑制する循環型社会づくりを推進。行政の役割は、持続可能な社会に向けた関係主体の取組への支援や組織化、市民や事業者への情報提供といったマネジメントにシフト。

*3Rとは、ごみの発生抑制(リデュース、Reduce)、再使用(リユース、Reuse)、及び再利用(リサイクル、Recycle)の3つのRをいう。

不燃・粗大ごみ処理機能の調査結果

プラスチックの分別が進んだ場合と、現行のまま推移した場合を想定し、比較調査を行った。

組合西側用地と隣接地の2案が考えられるが、いずれの場合も隣接地が必要となる。また、将来のごみ焼却施設の方針性を決定した上で、配置案を検討する必要がある。

◆具体化に向けた体制整備

3市共同資源化施設の建設や中長期ビジョン実現のため、3市共同検討組織の立ち上げが必要である。

今後のスケジュール：調査結果を踏まえ、検討を進めるとともに、説明会等でご意見を聞きながら、対応していきます。

◆問い合わせ先

小平・村山・大和衛生組合 計画課

《施設の規模と事業費》

	プラスチック分別が進んだ場合	現行のまま推移した場合
施設規模	●55トン/5時間 (不燃42トン/5時間、粗大13トン/5時間)	●72/5時間 (不燃58トン/5時間、粗大14トン/5時間)
建設費	●23億円(プラント工事12億円)	●35億円(プラント工事22億2千万円)
維持管理費	●1億2千7百万円	●1億8千8百万円

調査報告会を開催します

- 日時：10月20日(土) 午後4時
- 場所：小平・村山・大和衛生組合 会議室

○小平・村山・大和衛生組合議会報告

平成19年3月臨時議会(3月30日(金)開催)

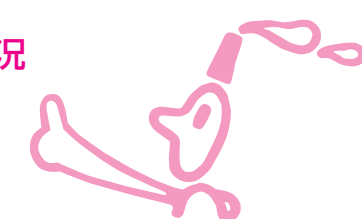
議案番号	内 容	議決結果
議案第11号	小平・村山・大和衛生組合議会の議員等の報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例	原案可決
議案第12号	小平・村山・大和衛生組合職員の給与に関する条例の一部を改正する条例	原案可決
議案第13号	小平・村山・大和衛生組合職員の退職手当に関する条例の一部を改正する条例	原案可決
議員提出議案第1号	小金井市の可燃ごみ処理受け入れに関する意見書提出について	原案可決

平成19年5月臨時議会(5月31日(木)開催)

議案番号	内 容	議決結果
—	小平・村山・大和衛生組合副管理者の選任	選 任
議案第14号	小平・村山・大和衛生組合助役の選任につき同意を求めることについて	同 意
議案第15号	小平・村山・大和衛生組合監査委員の選任につき同意を求めることについて	同 意
議案第16号	平成19年度小平・村山・大和衛生組合一般会計補正予算(第1号)	原案可決
—	議員の派遣について	原案可決

○平成18年度情報公開の状況

請求件数	6件
公開	5件
不存在	1件



◇小金井市の可燃ごみの受け入れを開始いたしました◇

小金井市などのごみを処理していた二枚橋衛生組合のごみ処理施設が、老朽化のため本年3月末に焼却炉を停止しました。

小金井市は、多摩地域ごみ処理広域支援体制実施要綱に基づいて、国分寺

月	搬入量(トン)
4月	16.24
5月	352.87
6月	210.11
7月	164.80
8月	—

市をはじめとする多摩地区の自治体や一部事務組合にごみ処理の支援を要請しております。当組合にも、主たる支援先の焼却炉の定期補修や点検時における支援の要請があり、4月から受け入れを行うことといたしました。

現在までの小金井市のごみ処理支援状況は表のとおりです。



「こもれびの足湯」おかげさまで大盛況

4月14日(土)にオープンした「こもれびの足湯」、オープンから4カ月で5万人を超える方が利用され大盛況です。気持ちよさそうに足湯に浸かりながら、お互いの会話も弾みます。「またお越し下さい」の声かけに、「来てよかった、また来ます!」との笑顔が、何よりの励みで温もりを感じます。

これからも、みんなで、きれいに、楽しく、つかってくださるようよろしくお願いします。

ところで組合の組織は?

小平・村山・大和衛生組合は、ごみ処理等を共同で行うことを目的に小平市、東大和市及び武蔵村山市において設置された一部事務組合で、議会及び執行機関等の組織は次のとおりです。

組合議会	議 員:組織市の市議会議員から各4名ずつ選出
理事者	管理者:小平市長 副管理者:東大和市長・武蔵村山市長 助 役:小平市副市長(1名)
監査委員	識見者:2名 組合議員:1名
事務局	事務局長 — 総務課 — 業務課 — 会計管理者 — 計画課